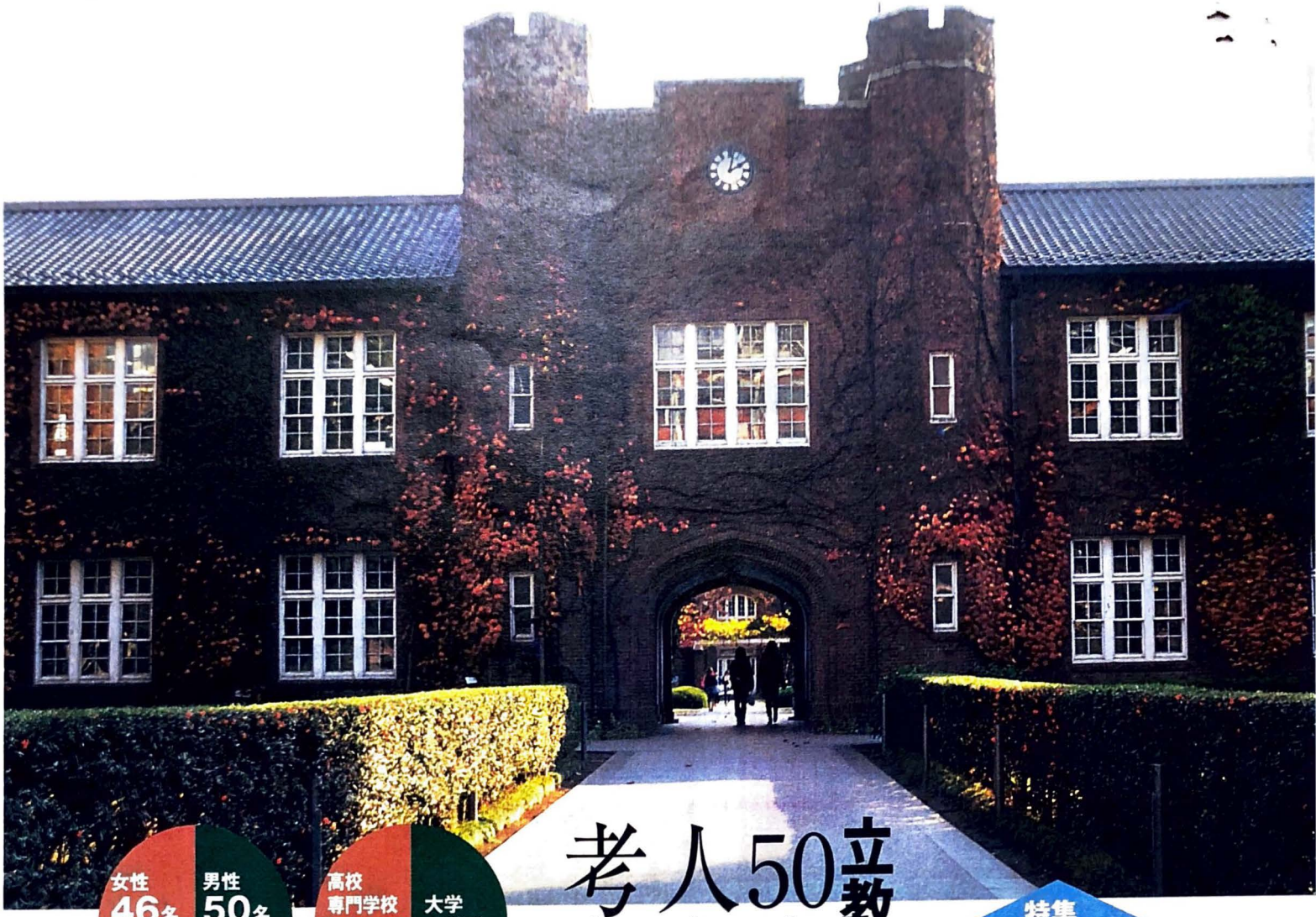


特集
大学で
勉強したい！

立教セカンドステージ大学
50歳を過ぎ、人生をどう生きるかを考えたいあなたへ。

学部の社会人学生の枠が縮小傾向にある半面、増加の傾向にあるのが大学の公開講座です。大学ごとに特色ある講座が開かれていますが、そんななか立教大学では、中高年のための独自の生涯学習の場をスタートさせました。他大学の人気公開講座とあわせてご紹介します。

撮影＝編集部

図1　受講生内訳
(2008.9.10現在)

図2　08年度本科
受講生最終学歴

定年後のプランは？海外や温泉への旅行で人生は終わりません！

20年ほど前から社会人入試を行ってきた立教大学では、08年4月から、原則50歳以上を対象としたセカンドステージ大学を発足させました。第一期生は、定員70名のところに170名の応募者があり、96名が入学。1年間のカリキュラムも終盤にさしかかっています。

設立に深くかかわってきた立教大学副総長の笠原清志教授は、団塊世代のひとり。同世代の、とくに男性たちが、定年後のライフプランを尋ねられ、日々の生活に根ざした生きがいをもっていない人が大勢いることに危惧を感じて

定年後も社会との接点をもっていたい。その最適な場所が大学でした。

倉嶋恒雄さん　63歳　埼玉県

銀行を53歳で退職し、08年1月、銀行系列会社を63歳で定年退職した倉嶋さん。

「蔦の絡まるチャペルでの厳粛な入学式、山梨県・清里での夏季合宿。難解な『現代世界論』にはいつも頭を抱えましたが、『壮にして学べば老いて朽ちず』です。それにしても、学生生活がこんなに充実したものになるとは、想像を超えていました」

同世代の人間との利害関係なしの付き合いも、倉嶋さんの学生生活を豊かな時間に変えているようです。毎週1度、授業を終えたあとには飲み会を設け、欠かさず出席しています。

「女房との会話も増え、最近では私も通いたいなんて、言ってます(笑)」

本科を修了してから、専攻科への進学も決まり、また1年新たな世界との出合いが待っています。

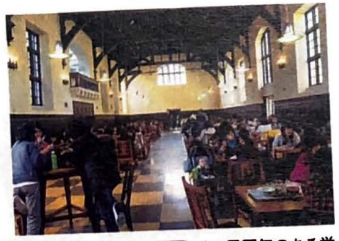
願書とともに提出したエッセーがスタートでした。

岩佐静子さん　60歳　東京都

仕事をもちながら、ダイビング、絵手紙、フルマラソンなど、多くの趣味をもつ岩佐さんにセカンドステージ大学への入学を勧めてくれたのは、立教大学出身のご主人でした。岩佐さんにとっては願書と一緒に提出する「人生の振り返り」のエッセーを書くことが、大学で学ぶスタートでした。

「私がいちばん印象的だったのは『介護と看取り』という講義でした。担当教授が老人施設を運営されている方でしたから、実態に沿った具体的な内容で、85歳の義母と同居している私にとっては、とても参考になりました」

修了報告書のテーマには、GNH(国民総幸福量)を選択。GNHは、ブータンの国王がGNP(国民総生産)の代わりに提唱した概念です。10月にはひとりでブータンにも足を運びました。還暦を迎え、来年は専攻科に進みます。



上：雰囲気のある学食。左：盛りつけもおしゃれなハンバーグは定食で400円。下：スペシャルメニューのヘルシーランチも400円。

の場が受講生たちの人生につながっていくしくみづくりも考えていると言います。

「知の枠組みを通じて同世代の人たちが集うことで、地域のネットワークとはまた違う人間関係が生まれます。卒業後も、ここを基点にNPOなどのさまざまな団体を立ち上げて、受講生のみなさんが将来にわたって活動していけるしかけもつくりたいと考えているところです」

08年12月4日、専攻科を希望する学生の選考が終了し、希望した47人全員が合格しました。新しい春には、また新しい受講生が、10代、20代の現役学生たちと同じ学び舎で、これからの人生と向き合う時間をもつことになります。

私たちも学生してます！

教員をしながら大学の通信教育で、仏教を学んで4年目です。

松元佐知子さん　58歳　長崎県

高野山大学大学院科目等履修生(通信教育課程)4年目

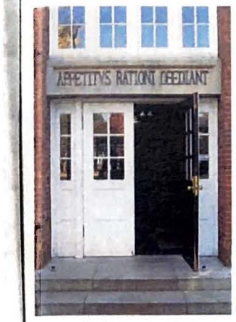
単位履修生として、1年に2科目2単位ずつ取得。今年はじめてスクーリングに参加。

授業料：1年間2単位で3万円。

現在、養護学校中学部の英語の教員をしながら、大学の通信教育で仏教を学んでいます。年に2科目ずつ単位を取得して、4年目の08年度は4科目を受講、ひとつは「お遍路」を選びました。実習は、夏休みを利用して香川県で4日間のお遍路の旅、レポートを提出しました。仏教要論など資料をきちんと読んでまとめていくのは難しく、提出したレポートが「不可」になってしまって、再提出したものもあります。

仏教は、私にとっては宗教というより哲学。自分を支えていくものであり、自分に欠けているものに気づかせてくれたもの。仏教を学んだことで自分のリフォームができたように思います。

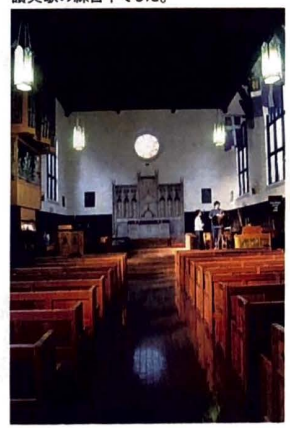
退職したら、大学に編入しようかとも考えています。そうして勉強を続け、いずれは得度したいとも思っているところです。



学食のエントランス。"ハリー・ポッター"に出てくる食堂のようです。

エイジング社会の教養科目群の「地球環境の変遷と未来」の授業風景。受講生は男女各10名。

キャンパス内にある教会。讃美歌の練習中でした。



左：レンガに蔦が這う校舎は1919年完成の本館。
右：正門正面のビルの一室に設けられた、セカンドステージ大学受講生のための専用ラウンジ。

いました。ましてこの世代の男性たちの人間関係は、これまで〝職縁〟関係に大きなウエイトが置かれてきました。定年とともに孤立する可能性が高くなります。

「ここからあとの20年、30年をどう生きるか。そのことに応えられる場をつくりたいと思いました。学ぶことでこれまでを振り返り、同じ世代の仲間たちとこれからについてともに考えられるような場です」

現在と違い、団塊世代の4年生大学への進学率は、当時、平均20%台。女性に限定すると10%台と、10人のうち8人、9人はキャンパスライフを経験していません。行きたかったけれど行けなかったという人は多くいます。大学に入学した人でも、当時は学園紛争が盛んだったため授業封鎖も多く、思うように勉強ができなかったという人も少なくありません。退職後、大学で学び直すということの需要は確実にありました。

ゼミもレポートもあり。本科で年9科目以上受講。1年を通じて学びます。

セカンドステージ大学は、文部省認可の大学ではなく、生涯学習の場ですが、本科1年、希望者が進む専攻科1年の合計2年で、カリキュラムは3つの科目群（32科目）から規定の単位を履修。科目群には、「エイジング社会の教養科目群」「コミュニティデザインとビジネス科目群」「セカンドステージ設計科目群」があります。また、7つあるゼミのいずれか1つに全員が参加し、合宿やフィールドスタディなども行います。ゼミ修了時には、400字詰原稿用紙に換算して30枚以上にもなる修了報告書も提出します。授業は毎日13時10分から20時までのあいだ。最低週2日～3日の通学ペースになります。

笠原副総長は卒業後も、こ

笠原清志立教大学副総長。経営学部教授です。

■2009年度募集要項

定員	70名(本科1年)
出願期間	2009年1月7日(水)～1月21日(水)
面接試験日	2009年2月17日(火)、18日(水)
選考結果通知送付	2009年2月25日(水)
選考料	10,000円
登録料・受講料	330,000円